



協会ホームページ

# 川崎美術協会会報

2025年12月10日

発行：川崎美術協会  
発行責任者 小玉 精子  
編集責任者 喜藤 剛二

第4号



来年は 2026年10月13日から10月18日の予定です。今回同様、多くの参加をお待ちします。また絵に興味をお持ちの方、初出品・学生の方特に歓迎します。

## 第96回川崎美術協会展報告

第96回川崎美術協会展は10月7日より10月12日の日程で開催されました。総来場者数789名、たくさんのご来場ありがとうございました。出品者76名、総出品数118点となりました。今回出品された皆様に御礼申し上げます。当協会展の大きな特徴は公募展ということで、会員の方から一般の方、学生の方と幅広く出品できることです。また小作品でも出品でき、今回も6号から10号までの作品が49点ありました。また大作も27点あり、大きなものは100号以上で8点ありました。今回は今までに無く、搬入時の手伝い応援並びに会場受付応援などを会員に広く協力頂くこととし、多くの会員のご協力を頂きました。作品はどれも力作ぞろい、特に学生出品4名の作品は、独創性豊かなものばかりで構図・色使いなど若さあふれる作品と感じました。皆様のお陰で「川崎美術協会展」を成功裏に終えることが出来ましたことをご報告申し上げますとともに心より御礼申し上げます。



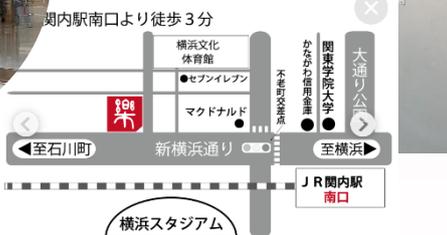
## 第96回美術協会展開催

## 小品展in関内「第二回藍の会展」報告

川崎美術協会々員有志による小品展、第2回「藍の会展」が2025年6月30日～7月6日の間で開催されました。今回は横浜関内にある画廊「楽」に会場を移し、16名の作者が自信作を持ち寄り60数点の展示となりました。格別の猛暑の中ピークを迎えた7月初旬にも拘わらず、会場が賑やかな大通り面に面していることもあり、多くの方々の来場ご観覧頂きました。2026年も第3回藍の会展を6月1日～7日まで関内「楽」で開催いたします。出展ご希望の方は責任者 富田健三迄お問い合わせください。会員審査の上、2月頃には参加費等をご連絡いたします。(富田携帯) 090-6520-8535



関内画廊「楽」



## 新会長あいさつ

今回展は充実した会場構成、展示内容で成功を収めた。まずは準備に奔走された実行委員のみなさんに敬意を称したい。会員たちの作品には個性ある気力が目立ったが、日頃の研鑽のたまものだろう。実力ある新加入者や若者も増えて会に新たな広がりも見れた。なにより会場の雰囲気明るさと元気が感じられたのを喜びたい。市民文化は地域に根差し自らの手で作り上げるもの。これは「川崎美術協会」の75年の歴史が語っている。我々もその担い手として、次に向かって活力ある展開を目指していきたいと切に思う。

川崎美術協会会長 山川 靖夫

# 受賞者の作品



○下澤 雪子 「ぬくもり」  
この度は輝かしい賞を頂戴し、大変嬉しく、心より御礼申し上げます。散歩でいつも見かける、小学校のプール脇に住んでいる野良猫を描きました。険しい表情の野良猫たちも多し中、この二匹の仲良しな様子がとても幸せそう、見ていてほのほのとした気持ちになりました。ここでこの時のつかのまの幸せをメインのテーマと意識しながら描きました。今回の受賞を励みに、皆様方の表現に学びながら描き続けて行きたいと思っております。



○寺島 幸夫 「春陽」  
金沢文庫駅から徒歩10分の所にある称名寺は、1258年北条実時建立による名刹です。桜の頃、銀杏の芽吹き始めたばかりの細い枝は太陽が当たって輝いており、太い幹と細い枝の影が地面に投影されていました。称名寺の後ろは山に囲まれており、それを背景に右からの朱塗りの直橋の先にある本殿が静かにたたずみ、前にある桜と桃の花が満開を迎えて、穏やかな春の日差しを浴びて輝いていました。



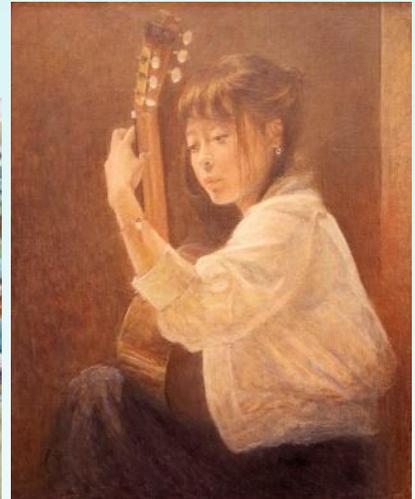
○東海林 信 「溪流」  
伝統ある川崎美術協会展において、最高の賞を頂き、私にとって大変な喜びであり、栄誉なことです。絵を描くのは風景や生活シーンを好きな様に描くのではなく、観た人に共感され、少しでも感動して頂ける事を願って描いております。この度の受賞はその証として精進して参ります。



○菅野 光男 「我が街、明日も輝いて」  
今回の作品は、新庁舎展望ロビーから夕陽を見に何度か通い、写真を撮ると同時にイメージを心に焼き付けて描いた作品です。多摩川、競馬場、発展を続ける駅周辺、工場地帯、昔からあるものから新しいものまで、この場所に立つとなぜこのロビーを作ったかがよく感じられます。絵のほんの一隅ですが、川崎が歩んだ様々な顔を見ながら、また明日も帆を進めて行こうとする力が湧いてくる！そんな思いを絵に込めました。



○北 直子 「吉原遊郭と川崎六郷渡舟」  
北さんは昨年に引き続き2年連続の受賞です。昨年同様、江戸時代の浮世絵風の一風変わった作品です。また構図や配置などが自由でのびやかでとても良く、鳥屋重三郎の時代を彷彿とさせる作品でした。(審査員 小玉)



○古木 嘉雄 「ギタリストの肖像」  
ギターが好きでギターを弾く人物画をよく描きます。演奏者がどんな気持ちで楽器を弾いているのか、その内面性を表現したくて描いていきます。絵画は奥深いもので受賞の感謝と共にこれからも精進して参ります。

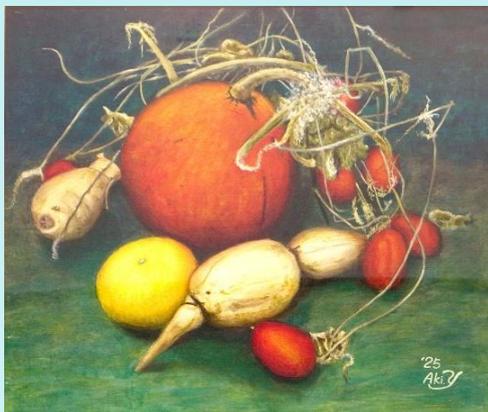
## 受賞者の言葉



○審査員特別賞(独創賞)  
山川 美音 「心の空」(学生)

		受賞者
1	川崎美術協会賞 川崎市文化祭奨励賞	東海林 信
2	神奈川県知事賞	寺島 幸夫
3	川崎美術協会会長賞	下澤 雪子
4	川崎市長賞	古木 嘉雄
5	川崎市教育委員会賞	北 直子
6	神奈川県議会議長賞	菅野 光男
7	川崎市議会議長賞	茂木 治代
8	川崎商工会議所会頭賞	割石 利子
9	川崎市観光協会会長賞	村田 修
10	神奈川新聞社賞	矢田 昭
11	無羅多正健賞	小山 敬子
13	川崎大師平間寺賞	黒沢 進士
14	奨励賞 川崎幸クニック賞	喜藤 剛二
15	堂本製菓賞	原田 小百合
16	審査員特別賞(独創賞)	山川 美音

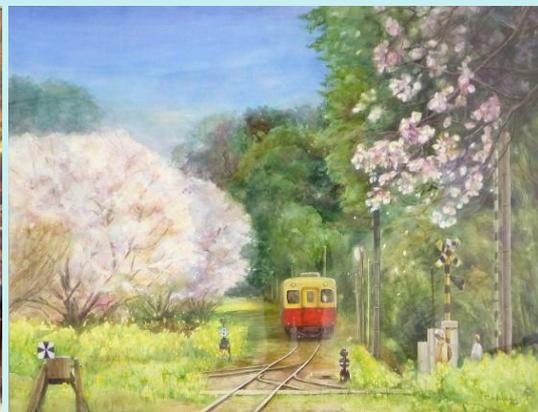
この作品は、私が創り出した絵空事の世界です。現実には時に残酷で、暗く寂しい気持ちのまま、怖くて。そんな心が疲れて辛くなっている全ての人を優しく癒してあげたくて、この絵空事の空を描きました。偽りの空ではあるけれど、疲れた心に少しでも私の心の空をあげたい。その人が眠るとき優しく温かな気持ちでありますようにという願いを込めて描きました。今回出品した学生全員、同じ学校の美術コースで毎日のように作品を製作しています。全員絵画が大好きで、固定概念に囚われず、自由に真剣に絵と向き合っています。



○矢田 昭 「からすうり」  
私は出品3回目ですが、賞を頂き驚き喜んでおります。油絵は50年程前から楽しんでおります。退職後のこの10年間は、教室に通い生活のリズムになっています。描く視点は「質感」「光」「遠近感」に置いています。「からすうり」は以前にもモチーフにしましたが、この作品はカボチャの迫力にからすうりを絡ませ、リズムを取ってみました。今回の受賞を励みに、絵に取り組み、人生を充実したいと思っております。有難うございました。



○茂木 治代 「秋を奏でる」  
私が絵を描き始めたきっかけは、主人と主人の母の16年間の介護生活が終わり、淋しさとたっぷりの時間と自由が残った時でした。ボーとしていても時間は過ぎますが、いやな事ばかり考えてしまいました。何かしなくてはと思った時、絵と出合いました。水彩から入り油彩に変わって3年が過ぎこの賞を頂けて、ますます励みになりました。この絵は自分で撮って来た落葉の写真とバイオリンを組んで描いたらステキな秋を描けるかと思いはじめました。同系色なので葉の色の配置を考えながら、グレース技法を使って質感を大切に描きました。



○割石 利子 「小湊鉄道の春」  
このたびは思いがけず、川崎商工会議所会頭賞をいただき、大変光栄に思っております。春の小湊鉄道の情景を通じて日本の原風景のような穏やかな時間を描きたいと思っておりました。これからも心に響くような作品を表現できるように励んでまいりたいと思っております。

## 表彰式・総会・懇親会

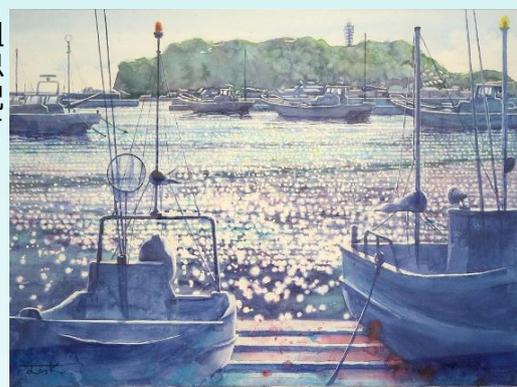


川崎市長の言葉

福田市長より、当川崎美術協会展の長い歴史と、美術を大切にする川崎市民の心と取り組みの素晴らしさへの感謝。また川崎市長として美術・芸術への積極的な取組などの挨拶を頂きました。市長自らの手で川崎市長賞受賞者である古木嘉雄さんに賞状の手渡しを頂きました。



総会開催時点での会員数73名。今年度の総会出席者21名・委任状提出者32名により総会は成立しました。第1号議案から第5号議案まで、全ての議案は可決承認されました。総会の後、場所を移して懇親会に入りました。  
2025年度 本部役員  
会長・運営委員長 山川靖夫  
事務局長 小玉精子  
会計委員 富田健三・井上和子  
会計監査 大江孝行・宮村有紀  
運営委員 計20名



○村田 修 「煌めく海」  
私は、日常的に港や船の絵を好んで描いていますが、周辺の環境、空模様、時間によって、様々に変化する水面に魅力を感じています。今回の作品は、江ノ島に近い腰越漁港をモチーフにしています。一面に広がる煌めきは、比較的穏やかな逆光の海面に起こる現象ですが、これをどの様に美しく表現するかが今回のテーマでした。実は、ここ一年程思考錯誤して来た、寒色系の水面に白抜きと暖色系の光の粒々で、観念的に表現して来た延長線上にあるものでした。この度、歴史ある川崎美術協会展で評価していただき、とても励みとなりました。



### 作品審査を終えて

96回展は若い学生の方をはじめ新しい出品者も多く、これからの明るい展望が開けた美術展でした。今後の課題としてはSNS等を活用してより開けた協会にしたいと思います。作品審査に当たってですが、協会展の受賞は全ての審査員による評価の集計で決定されます。出品者として、ご自分の作品が審査員にどのように評価されているのを知りたい方には、直接に審査員の評価が聞けるギャラリートークがあります。今度こそ受賞しようと意気込んでいる方は、是非このギャラリートークに参加してみても如何ですか。辛口の評価もありますが、細やかな出品作への指導など大変参考になる本展の行事です。(審査員)

### 役員・受賞者他集合写真



3月の暖かい晴天の一日、川崎市文化協会主催の研修旅行に参加させて頂き、三浦半島へ。首都高より横浜横須賀道路を通して、ペリー記念館、三笠公園にて、記念館三笠を見学。三崎でマグロづくしの昼食、お土産購入と盛りだくさん。バスの中の宮田先生と山本先生のお話が、とても勉強になりました。戦艦三笠の内部見学にあたっては、ご説明下さる方の並々ならぬ思いに感銘を受けました。NHKの坂の上の雲のまさかのあの時代を、身近に感じられあの時代の日本がいかに頑張っていて世界と戦っていたのか・実家の菩提樹が日米和親条約の締結の地・青木山本覚寺であることもあり、ペリー提督の像も身近に感じられました。バスに戻ってから宮田先生のお話にメモを取りながら、三浦半島が関東大震災で隆起した土地であること、三浦の野菜が一種大量生産であることをお聞きして、窓外の景色も美しく感じられまし。昼食のマグロも美味しく頂き、海の駅・うらりでは鳥賊や野菜、湘南ゴールドを買って帰り美味しく頂きました。(小玉)

## 川崎市文化協会市外研修報告



## 川崎区文化協会美術展報告

第34回川崎区文化協会展は(11月4日～11月9日)にアートガーデンかわさきにて開催されました。来場者数は1200名。この美術展は(華道・書道・絵画・写真・水引工芸・パッチワーク・ふれあい講座等々)多岐に渡る分野の方々の創作活動の発表、交流の場でもあります。今回も呈茶席が賑わいをみせていました。(田辺)



## 美術協会スケッチ会報告

10月のスケッチ会では藤沢駅からほど近い新林公園を訪れ、湿性植物茂る散策路、野鳥が遊ぶ湧水池やその畔に佇む趣きのある古民家等を描きました。(汐見)



## スケッチ会予定

スケッチ会は原則、毎月第三水曜日に開催されます。皆様の自由な参加をお待ちしています。

○1月21日 鎌倉杉本寺で苔の階段を描く  
JR鎌倉駅午前10時集合

○2月18日 御幸公園で梅を描く  
御幸公園バス停午前10時集合

○3月18日 三ツ池公園で早咲きの桜を描く  
三ツ池公園正門午前10時集合

○4月15日 稲村ヶ崎で春の海を描く  
江ノ電稲村ヶ崎改札午前10時集合

【お弁当持参・小雨決行・雨天の場合翌週】

【決行が不確かな時は、遠慮無く直接連絡下さい】

【参加費 2,000円】連絡先 小玉 090-7257-3463



出品者集合

汐見正和「白山冬景色」

三上保男「静物」



富田健三「アトリの片隅」

田辺彩子「花」

関東信明

川崎美術協会からの出品者は15名

※会報掲載は抜粋

「木曾路奈良井宿」

## 運営委員たより

永らく運営委員として活動された、上野義幸さん・郷田数夫さん・高橋正子さんの三名が運営委員を退任され、代わりに新規運営委員として一昨年に下澤雪子さん・今年に東海林信さんと名嘉真多賀子さんが加わりました。以下計20名で運営して参ります。

運営委員氏名 (ア行I順)

井上和子 大江孝行 上條千恵子 関東信明 北川文子  
喜藤剛二 小玉精子 坂口ハル工 汐見正和 篠田泰三  
下澤雪子 東海林信 田中房江 田辺彩子 富田健三  
名嘉真多賀子 福井元 三上保男 宮村有紀 山川靖夫

## 編集後記

今回は当初107枚の出品要項を作成し、9月20日ハガキ最終日としました。ハガキ回収数は86枚で会員出品67名(内、学生出品4名)・一般出品9名・不出品3名でした。今回の展示会で一番感じた事は、学生出品の4名の方々の絵の若さでした。川崎美術協会展は、油彩・水彩・日本画などを中心に展示していますが、現代アートの多様な表現形態に対応することも、新規参加者を増やす上で重要だと思います。若い世代のアーティストは、よりメディアアートやポップアートなど、表現の幅が広がっています。今回の学生作品には、制作意図、構図や色使いなど、とても斬新で新鮮なものを感じました。これからの協会展では、これら新しいジャンルにも門戸を開き、多様な作品が集まることで、より活気のある協会展になる可能性が必要と感じました。現在は会員でない一般の方も出品できる公募展の形式をとっており、川崎市内だけでなく横浜市や近隣地域からの新規出品も歓迎しています。川崎美術協会展が、より幅広いジャンルの出品者を集め、美術を愛するすべての人々にとって、より魅力的で開かれた存在へと発展していくことを期待します。(喜藤)

展示会を終えて